

## 第144回教育研究評議会議事要録

日 時 平成29年2月13日（月）14時00分から15時58分まで  
場 所 本部棟5階 大会議室  
陪 席 千家監事  
欠席者 大谷評議員，金山評議員，熊倉評議員

・第143回の教育研究評議会議事要録について承認された。

### 議題1. 全学委員会の見直しについて

鈴木総務部長から資料1により前回教育研究評議会で協議事項として提案していた全学委員会の見直しについて改めて説明がされた。

学部の意見として各学部，研究科の意見を反映させるために会議には各学部，研究科から最低1名の委員選出が必要ではないかとの意見があったが，学長からは学部との連携についてはセンターが検討し，学部からもセンターに積極的に働きかけをして連携を深めるように依頼された。また，図書館本館運営会議は医学部を含まないため全学委員会の見直し対象ではないのではないかと意見があったが，学長から医学部は含まれていないが規則上，学部，研究科から1名を選出するようになっている会議を見直し対象としていること，会議を廃止等の対象にするかは図書館長の判断によることが説明された。

最後に学長から，各学部から形式的に選出される教員よりも実質的に必要な人材を集めて機能的な会議運営を図ることが主旨であることが説明され，原案どおり承認された。

### 議題2. 「島根大学共同研究講座及び共同研究部門」創設並びに規則の制定について

秋重理事から資料2により本学と民間機関等との産学連携推進のため，共同研究を行う拠点として「共同研究講座及び共同研究部門」を創設すること，並びにその設置及び運営に関する規則を制定することについて説明され，原案どおり承認された。

### 議題3. 中海・宍道湖・大山圏域市長会との包括的連携に関する協定の締結について

秋重理事から資料3により地域社会の活性化，産業振興及び人材育成に寄与することを目的とし，中海・宍道湖・大山圏域市長会と包括的連携推進に関する協定を締結することについて説明され，原案どおり承認された。

### 議題4. 沖縄高専との包括的連携に関する協定の締結について

秋重理事から資料4により地域社会と国際社会の発展及び人材育成に寄与することを目的とし，沖縄高専と包括的連携推進に関する協定を締結することについて説明され，原案どおり承認された。

### 議題5. 島根大学人間科学部の設置に伴う特例に関する規則の一部改正について

藤田理事から資料15により人間科学部初代学部長の選考方法の特例規定を加える改正について説明され，原案どおり承認された。

### 協議事項1. 国立大学法人島根大学教員個人評価におけるセンター等の長の評価基準の改正及びそれに伴う処遇反映方法について

秋重理事から資料5により教員個人評価結果と管理職としての評価結果に管理職の在職期間に応じたウェイトを乗じて行っていた総合評価を廃止し，それぞれの評価結果をそのまま被評価者に通知し，評価に対する意見申し立ても出来るよう変更するため，必要な評価基準の改正を行うことが説明され，続いて藤田理事から改正による評価の処遇反映方法について説明された。

評議員からは次の意見が出された。

○改正では教員個人評価で処遇が殆ど決まるが、管理職としての活動も処遇に反映できる方法を考えて欲しい。

○管理職の評価を賞与で処遇に反映し、個人評価を月々の給与で反映するのはどうか。この件については、2月中に総務課へ意見を提出し、次回3月の教育研究評議会で審議することとした。

#### 協議事項2. 機構等の教員人事体制変更に基づく教員採用等手続き（案）について

藤田理事から資料6により現在の機構等教員の採用等の手続きについて見直しを行い、戦略的な人事による機構の機能強化、教員の負担軽減及び手続きの簡略化を図ることについて説明され、学長から機構長と総務・労務担当理事が協議の上、人事方針等の策定を行い、機構人事委員会の委員に総務・労務担当理事を追加することで執行部としての大学の方針等を人事で反映される事を目的としていることが説明された。

この件についても、2月中に総務課へ意見を提出し、次回3月の教育研究評議会で審議することとした。

#### 協議事項3. 島根大学の「新学事暦」（案）について

武田評議員から資料7により教育・入試改革特別委員会で「クォーター制」の導入を検討したが同制度の導入には多くの問題点があると判断した。そこで「フレックス・ターム制」と「ギャップ・ターム制」の新しい学事暦を提案すること、またその問題点、利点について説明された。学事暦の変更は全学の判断とするため、各学部において十分議論する時間をとり4月の教育研究評議会で審議することとした。

評議員からは次の意見が出され、武田評議員から回答があった。

○前期授業期間の説明はされたが、後期は変更しなくてよいのか。また、この学事暦は大学院も導入するのか。

→今回は前期に限り提案している。また、現段階では全ての学部、大学院で導入を考えている。

○学事暦を変更して入学式を4月2日に実施することは可能なのか。

→追加合格者がいるため学生証の発行が間に合わない等の理由で実施が難しかったが学生証の配布方法の見直しにより対応可能である。

○フレックス・タームに設ける授業等を管理する組織が必要になるのではないか。

→管理する組織、委員会が必要であると考えている。

この件についての意見は、4月の評議会前までの提出とすることとした。

#### 報告事項

学長から、報告事項については、「会議の効率的な開催について（申し合わせ）」に基づき特に説明が必要な事項について報告する旨の説明があり、以下の報告事項について学長、担当理事より報告があった。

報告事項2「次期生物資源科学部長、次期総合理工学研究科長について」は学長より、部局長選考規則に基づき部局長候補者の面接を実施し、生物資源科学部井藤和人教授と総合理工学研究科廣光一郎教授を選考した旨の報告がされた。続いて、荒瀬理事より報告事項3「平成29年度入試の志願状況について」（資料9）、「平成29年度個別学力試験の実施について」（資料10）、「平成30年度入試問題の作成について」（資料11）の報告がされ、試験実施に係る各学部等への協力と、試験の立ち入り禁止期間の周知について依頼された。続いて、報告事項6「平成28年度松江地区事業場職員に係る一般定期健康診断の受診状況について」は松浦理事から資料12により報告がされ、未受診者の受診勧奨依頼がされた。報告事項7

「平成29年度教育研究評議会の開催日について」は資料13により藤田理事から報告された。報告事項8「災害対応ポケットマニュアルの作成について」は松浦理事から資料14により作成予定であることが報告され、意見があれば総務課に2月17日までに連絡するよう依頼された。

その他の報告事項として学長より、経営協議会で議論されたことを教育研究評議会でも共有するためとして、以下の件について報告がされた。

- ・大学ランキングへの取組み
- ・古代出雲文化フォーラムへの取組み
- ・中期目標計画での附属図書館の積極的な位置づけ
- ・地域包括ケアセンターと人間科学部との連携
- ・理工系大学院の充実, 今後の大学院の理工系と人文系の融合的な組織再編
- ・人間科学部の卒業生地元定着率50%の実行
- ・本学の部局長選考の規程の課題

最後に藤田理事より古代出雲文化フォーラムの申込が会場800人のところ905名の申し込みがあったことが報告された。